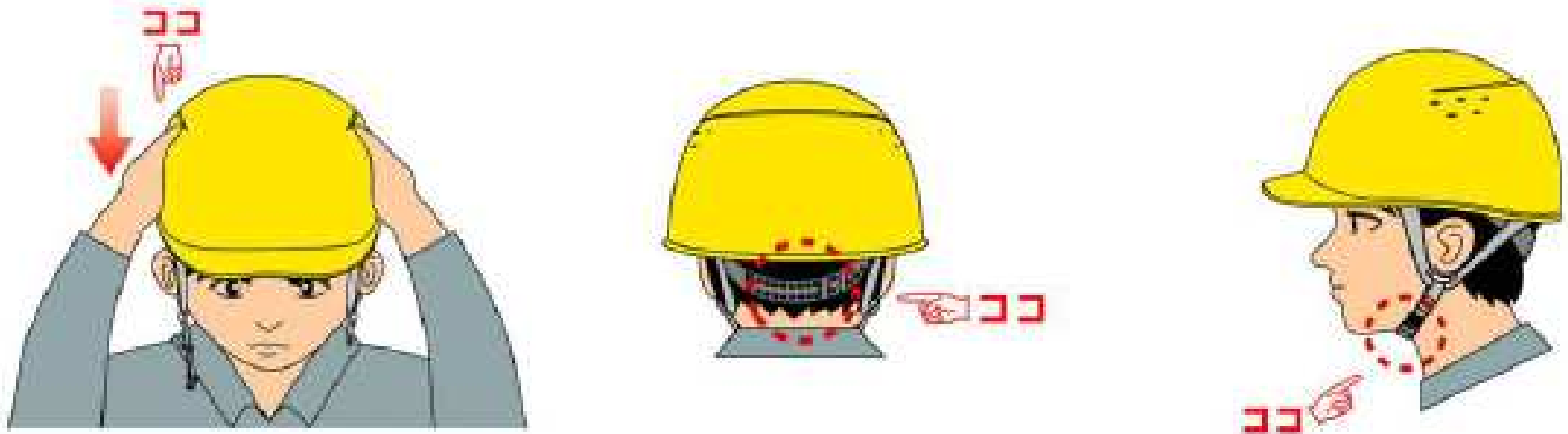


ヘルメットは正しく被りましょう あごひもはきっちり締めましょう

着用方法



1. かぶり方

保護帽はまっすぐに深くかぶり、後ろに傾けてかぶらないようにしてください。(あみだがかぶりをしないでください。)

2. ヘッドバンドの調節

ヘッドバンドは、頭のおきに合わせ調節し、後面に固定してください。(ヘッドバンドの調節が悪いと、使用中にくらついたたり脱げやすく、保護性能を十分に発揮することができません。)

3. アゴひも

アゴひもは緩みがないようにしっかりと締めてください。着用中は、ゆるめたり外さないでください。(事故のとき、保護帽が脱げて重大な傷害を受けます。)

平成29年墜落死亡事故

29年 8月 15～16時	作業先 70歳代 9年	その他の職業 工事業	高圧・低圧 の物との 接触 高圧(低電 圧電)	平屋建築用の解体工事現場で、作業中の減 速器が空中に落下し、コンクリートの床 面に飛散し、病院に搬送され治療を受 けていたが、7日後に死亡した。 <u>(保護帽を 着用していたが、あごひもが緩んでいたため、転 倒時に外れた。)</u>
---------------------	-------------------	---------------	---	--

ココがポイント

・あごひもをきっちり締めないと後ろ向きに転倒した時にヘルメットが外れ、頭部に重大な損傷を与えてしまいます。

4. あごひもに注目！—あごひも装着の効果—

条件	飛落専用 (タイプA) アゴひもを締めない時	飛落専用 (タイプA) アゴひもを締め時
頭部への衝撃強度	1500Jから2000Jkgf (保護帽が脱落/外れれば飛んできます)	720Jkgf

※試験条件:頭部の位置を地上から高さ1mにして、鉄板へ転倒させる。

上の表を見て下さい。あごひもを締めない場合は、転倒して頭部が地面に衝突した瞬間、保護帽は頭部から外れてしまい、死に至ることもあります。あごひもを締めることがどれほど大切かがよく分ります。ただし、外国では、大抵の場合あごひもは使っていません。これは、墜落、転倒事故の時、頭部を保護帽で守ろうという思想が、規格上次加しているからです。

各工製作所ホームページより
(ヘルメットメーカー)